

伊達赤十字病院と住民の皆様を繋ぐ情報誌

だてクロス

総合病院伊達赤十字病院広報誌

新年のご挨拶 伊達赤十字病院 院長 武智 茂

- ・ P 3～5 <特集> 『さまざまな甲状腺疾患』
耳鼻咽喉科部長 長内 洋史
- ・ P 6 地域医療連携室からのお知らせ、接遇ラウンドを開始
- ・ P 7 職域ワクチン接種を実施、備蓄食品の活用策を模索
- ・ P 8 各地の変わり雑煮



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

伊達赤十字病院

ご自由にお持ち
帰りください

Please take it home freely.

Vol.13



<特集>

『さまざまな甲状腺疾患』

新年を迎えて



令和4年を迎えて、新年のご挨拶を申し上げます。

一昨年から始まった新型コロナウイルス感染症は昨年も猛威を振るい、日本中の皆さんがストレスの溜まった毎日を過ごしていた1年間だったと思います。北海道の感染者も全国的にみますと多くの住民の皆さんが罹患し、時にはクラスターも発生することもあり、当西胆振地区でも多くの患者さんが発生致しました。当院としてはこの地域の基幹病院として、この新型コロナウイルス感染症に対しての予防、治療対策を院内挙げて取り組んでまいりました。

当院で、もしクラスター等が発生致しますと、地域の一般診療の継続に大きな障害となることから、院内での新型コロナウイルス感染症の発生を未然に防ぐことが重要な課題となりました。そのため院内での感染防止対策委員会を通じ、その時々状況に応じてタイムリーに対策をまいりました。正面玄関での来院患者さんの対応には、病院関係者やOBの方達の力をお借りしてチェックをさせていただきました。また発熱患者さんの電話対応や発熱外来での対応、病院職員の感染に対する意識づけの勉強会等も行なった結果、幸いにも病院機能は維持することができて、地域の皆さまには大きなご迷惑をかける事もなく過ごした1年間でした。また、残念ながら新型コロナウイルス感染症に罹患された方々については、病院の出来るだけの機能の中で入院診療を行いました。

そのほかに予防活動としては、65歳以上の高齢者の重症化が指摘されておりましたので、伊達市や胆振西部医師会と協力して7月一杯を目処に、住民の皆さまへのコロナ予防接種事業を展開いたしました。さらに、なかなか住民の皆さまの予防接種率の充足が満たされないことから、伊達市、商工会議所の皆さんと相談して希望の方々へのコロナ予防接種事業にも携わることが出来ました。感染対応専門の看護師が要望に応じて、出前講演を行なうなど多くの対応を行なってまいりましたが、あらためてこの場をお借りして今回の新型コロナウイルス感染症の対応に御協力いただきました皆様に感謝を申し上げたいと思います。

当院は昭和15年に開院し、伊達市で診療を開始して今年で82年目を迎えます。この度の新型コロナウイルス感染症の問題や有珠山噴火等の災害対策医療等は、いつも起こり得ることではありませんが、当院としては地域に根ざした赤十字病院として、問題が生じたときには何時でも直ぐに対応できるように、職員一同日頃から意識づけや訓練を行っております。

毎年何が起きるか予想のつかない毎日です。しかし当院としては赤十字病院という公的医療機関として、地域の住民の皆様にあらゆる面で健康と安心をお届け出来るように、伊達市や関係機関と協力をして地域医療を展開していく所存です。そして皆さまに愛される地域の病院でありたいと願っており、職員一同今年も頑張っております。住民の皆様からの温かい御支援をお願いするとともに、本年が皆様にとって幸せな1年になります様にお祈り申し上げます。

令和4年 新年

伊達赤十字病院長 武智 茂

Doctor Profile

長内 洋史（おさない ひろふみ）
耳鼻咽喉科部長

日本耳鼻咽喉科学会 専門医

『さまざまな甲状腺疾患』

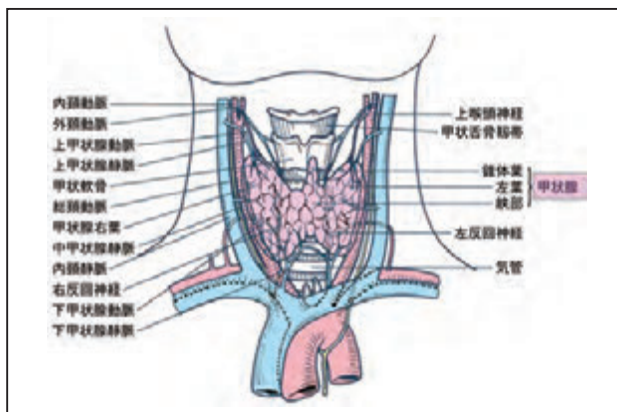


2010年に伊達赤十字病院に着任し今年で12年目になります。当院の耳鼻咽喉科は一般的な耳鼻咽喉科診療に加え、水曜と金曜の午後に甲状腺外来を行っています。今回は皆さんが一度は聞かれたことがあるかもしれない甲状腺疾患について、お話しいたします。

甲状腺は首の下のほうにある組織で、息の通り道である気管の前にチョウが羽を広げたように存在する臓器です。大きさは4～5cmほどで重さは15～20g程の比較的小さな臓器です。甲状腺は、食べ物に含まれるヨウ素（ヨード）を材料にして甲状腺ホルモンを作る臓器です。

甲状腺ホルモンの役目は、脳の活性を高め、体の発育を促進し、新陳代謝を盛んにする働きがあります。つまり、日常の活動するために必要なエネルギーを作り、生きていく上で必要なホルモンとなります。この甲状腺ホルモンは、後で述べますが高くても低くても駄目なホルモンです。

甲状腺疾患には様々なものがありますが、今回は甲状腺腫瘍全般と甲状腺ホルモンの機能が低い甲状腺機能低下症として橋本病を、ホルモンの機能が低い甲状腺機能亢進症としてバセドウ病を中心にお話しします。



なっています。

検査はまず採血で甲状腺ホルモンや甲状腺に貯蔵されているサイログロブリンを調べます。腫瘍の状態をみるためにエコーを行い、甲状腺腫瘍の大きさや性状、周囲のリンパ節の腫れもリンパ節転移の可能性がないか調べます。一般に1cm程度までの小さな腫瘍は経過観察で問題ない事が多いのですが、大きな腫瘍や悪性を疑う腫瘍はCT検査や穿刺吸引細胞診・針生検を行います。

穿刺吸引細胞診・針生検とは、エコーで甲状腺の腫瘍を確認しながら、針を刺して細胞や細長い組織を取り、悪性の細胞や構造が見られないかを調べる検査です。この検査により悪性なのか良性なのかの目安を付けることができます。ただし、腫瘍の種類によっては良性悪性の判断ができないことや、大きな腫瘍で針を刺した部分と離れた部分に悪性腫瘍が見つかることもあります。甲状腺周囲には多数の血管や神経なども走っており、間違えて針を刺すと出血や神経麻痺を起こすことも

1 甲状腺腫瘍

甲状腺の腫瘍は女性に多く、高精度の超音波検査（エコー）を行えば、ごく小さいものは大多数の中年以降の女性に見つかります。腫瘍には良性の腫瘍と悪性の腫瘍（甲状腺癌）があります。女性では甲状腺腫瘍を持つ患者さんの総数が多いため悪性腫瘍（甲状腺癌）の割合は低いのですが、甲状腺癌の女性の患者さんは少なくありません。逆に男性には良性と悪性を含めた甲状腺腫瘍の患者さんは少ないのですが、悪性の腫瘍の割合が多く

あるため、穿刺吸引細胞診・針生検に関しては全例私がエコーで見ながら針を刺す検査を行います。

治療としては一般に良性疑いでも腫瘍が大きい場合や悪性腫瘍（甲状腺癌）が疑われた場合は、手術にて切除・摘出となります。良性腫瘍疑いのときは、基本的に大きな腫瘍のある方を切除（半切術）し、反対側の甲状腺は残します。悪性が疑われるときは腫瘍のある方半分の切除（半切術）から甲状腺全部の摘出（全摘術）を行います。

周囲のリンパ節に転移が疑われる際は、周囲のリンパ節も同時に摘出します。悪性腫瘍では放射性ヨードの治療を追加治療することがありますが、癌の治療では甲状腺組織が残っていると効果が無いため、半切術後に悪性と判明した患者さんは反対側の甲状腺も切除して甲状腺全摘術としてから放射性ヨウ素治療を行うことがあります。

甲状腺癌について少し詳しく説明すると甲状腺癌にも種類があり、悪性といっても比較的小となしい乳頭（にゅうとう）癌や濾胞（ろほう）癌があり、中間的な髄様（ずいよう）癌、予後の悪い低分化（ていぶんか）癌、そして予後が極悪な未分化（みぶんか）癌に分かれます。この腫瘍の種類と腫瘍の大きさ広がり、リンパ節への転移の有無（進行度）で治療方針を決めていきます。



2 甲状腺機能低下症(多くは橋本病)

甲状腺ホルモンが低下した状態です。大多数の患者さんは橋本病によるもので中年以降の女性が多い病気です。橋本病の原因は本来細菌やウイルスなどを攻撃する抗体が自分の甲状腺を攻撃してしまう自己免疫性疾患の一つです。症状は気力が無くなり、皮膚の乾燥、体重増加、だるさ、甲状腺の腫れなどを認めます。

検査は採血で甲状腺ホルモンの低下や病気の原因の自己抗体（抗Tg抗体、抗TPO抗体）を確認します。また、甲状腺の腫れをエコーにて検査します。

甲状腺ホルモンが多い（バセドウ病）	甲状腺ホルモンが少ない（橋本病）	
甲状腺機能亢進による症状	共通する症状	甲状腺機能低下による症状
■ 暑がりである	■ 疲れやすい	■ 寒がりである
■ 汗が出やすい	■ だるさを感じる	■ 皮膚が乾燥しやすい
■ 体重が減る	■ 甲状腺が腫れている	■ 体重が増える
■ イライラしやすい	■ 髪の毛が抜けやすい	■ 気力が無い、だるい
■ 口が乾く		■ 声がかすれる
■ 不眠		■ 眠気を感じる
■ 手足が震える		■ 筋力が低下する
■ 排便の回数が増える		■ 便秘がち
■ 動悸がする		■ 筋力が低下する
■ 息切れをしやすい		■ コレステロール値が高い
■ 眼球が出てくる		■ 足がむくむ



治療は甲状腺ホルモン剤の内服を行い、時々採血で甲状腺機能をチェックします。比較的薬でのコントロールがしやすいため、腫れた甲状腺を手術的に摘出することは殆どありません。

橋本病の自己抗体が出ていても甲状腺ホルモンが正常な患者さんは潜在性橋本病と呼び、女性ではかなりの数の患者さんがいます。基本的には経過観察です。ただし不妊の原因となり得るため、その時は積極的に薬で治療を行います。

橋本病は慢性の自己免疫性の炎症で、通常はリンパ組織の存在しない甲状腺にリンパ球が浸潤(周囲の組織を侵していくこと)します。時にそのリンパ球が腫瘍化して悪性リンパ腫を生じる場合がありますのでエコーも時々行います。

3 甲状腺機能亢進症(多くはバセドウ病)

甲状腺ホルモンが亢進(高まった)した状態です。大多数の患者さんはバセドウ病(グレーブス病)によるもので20～50歳代の女性に多い病気です。バセドウ病の原因はこちらも自己抗体によるものです。症状は多汗で暑がり、動悸や頭痛、体重減少、倦怠感、甲状腺の腫れ、眼球突出などが見られます。検査は採血で甲状腺ホルモンの上昇や病気の原因の自己抗体(TRAAb, TSAb)を確認します。また、甲状腺の腫れをエコーにて検査します。

治療には大きく分けて3種類があります。前述の橋本病よりは治療に苦労することが多いです。1つ目は薬で甲状腺機能を抑える治療です。ただし白血球減少や皮疹など副作用で薬が継続できないときや、薬が十分な効果を出さないときは他の治療に変更します。2つ目の治療法は手術です。甲状腺ホルモンが多いので、ホルモンを作る甲状腺自体を大部分切除(亜全摘術)するか、甲状腺全部の摘出(全摘術)を行います。亜全摘術では少し残した甲状腺が長い年月でだんだん大きくなり甲状腺機能亢進が再発する事があります。また、全摘出術では再発は無いのですが、術後に副甲状腺機能低下により低カルシウム血症となり、採血や薬を増やさなければいけない事もあります。このため最近では手術の適応はかなり少なくなっています。これから子

供を希望する若い女性で薬が使えない場合や、後で述べる放射線治療を避けたい場合に手術となります。3つめが放射性ヨウ素治療です。甲状腺は食べ物に含まれるヨウ素(ヨード)を吸収し、原料にして甲状腺で甲状腺ホルモンを作ります。ヨウ素には放射性ヨウ素(放射性同位体:アイソトープ)と呼ばれる放射線を放出するヨウ素があります。自然界にも微量の放射性ヨウ素がありますが、この放射性ヨウ素を人為的に作って医薬品として使用します。この放射性ヨウ素をカプセルで飲むと普通の食事の中に含まれているヨウ素と同じく吸収されて甲状腺に集まります。放射性ヨウ素は甲状腺で放射線を出すので甲状腺を破壊し、甲状腺ホルモンを作る能力を下げます。アメリカでは一般的な治療なのですが、日本人は放射能というと原爆をイメージする人が多いのか、あまり好まれない傾向があります。

短所は放射性ヨウ素治療をできる病院が少なく、限られた病院で行う治療となります。また、放射性ヨウ素治療による副作用・ほかの癌が発生する危険性は殆どないとされていますが、これから妊娠を考える若い女性は基本的に適応とはなりません。

今回は甲状腺の代表的な病気を取り上げましたが、甲状腺が気になる方は水曜日、金曜日午後の甲状腺外来を受診してください。



地域医療連携室だより

整形常勤医退職のお知らせ

高田整形外科医師が令和3年12月31日付けで退職いたしました。そのため、入院や手術の対応ができなくなりました。皆様方にはご不便をおかけいたします。外来診療は、JCHO登別病院からの出張医師が完全予約制でこれまで通り診療しております。

Web面会のお知らせ

当院は面会禁止を継続しております。新型コロナウイルスやインフルエンザの感染状況により、対応を随時検討しております。

患者様は病室で、ご家族様は医療相談室でタブレット端末を利用した「Web面会」を行っております。

完全予約制となりますので、医療相談室までお問い合わせください。

地域医療連携室から

地域の医療機関からの依頼で、当院の設備を利用した検査予約を受けております。CT検査・MRI検査・核医学検査・骨密度検査などを行っています。かかりつけ医師とご相談の上予約することができます。体のお困りごとは、いつものことをわかっているかかりつけ医にご相談ください。当院は地域の医療機関とも連携して地域の皆様の健康をお守りしています。

循環器科に、森田亨先生が着任されました



森田 亨（もりた とおる）

1967年2月5日 北海道むかわ町生まれ

1991年3月 旭川医科大学卒業

循環器専門医

好きなこと カテーテル治療と自転車

ひとこと 4年間在籍した八雲総合病院循環器内科より、2021年10月に伊達赤十字病院循環器科に赴任しました。循環器疾患の幅広い診療を継続していきます。

より満足していただける 病院を目指して

～接遇ラウンドを開始～

「患者様も職員も笑顔になれる病院」を目指して、当院では10月から「接遇ラウンド」を開始しました。これは、患者サービス向上委員会が中心となって、毎週金曜日、外来と病棟を巡回して職員の患者様への接し方をふりかえる活動です。

全部で10項目のチェックリストを片手に、職員の患者様への接し方を見て、あるいは直接職員に話を聞いていきます。課題が残る言動を注意するというより、接遇ラウンドを行うことで全ての職員が常により良い接遇を意識して業務にあたることを狙っています。

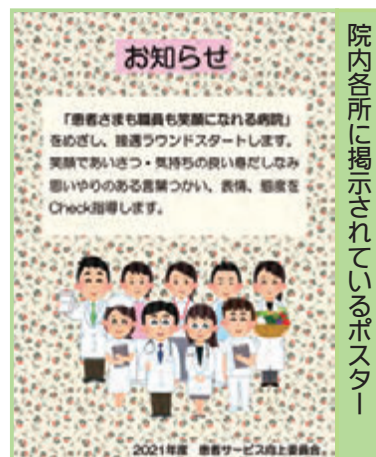
今後は、これまでのラウンド結果を取りまとめて、病院内外に公表・共有することとしています。



患者様、職員の邪魔にならないよう細心の注意を払って活動しています



職員への聞き取りも行います



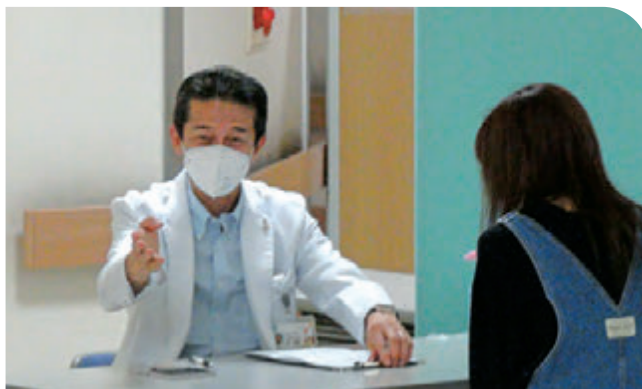
院内各所に掲示されているポスター



2か月にわたりコロナワクチンの職域接種を行いました

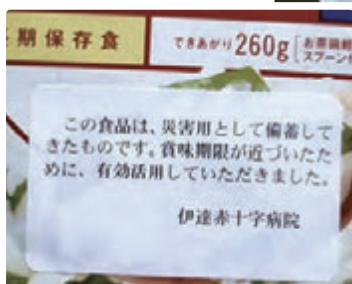
伊達商工会議所様が市内約700の加盟する商店・事業所関係者のコロナワクチン接種を計画され、当院では医師・看護師等の医療従事者など病院を挙げて協力させていただきました。

夏の余韻が残る9月4日（土）から肌寒さを感じる10月24日（日）までの第1週及び第3～4週の土・日に、1回目接種3,480名、2回目接種3,432名、延べ6,912名の皆さんが当院で接種を受けられました。当院は医師を含め延べ444名の職員が一丸となって、伊達市民の皆様の健康と安全を守るという使命感をもって接種にあたりましたが、当院職員にとっても大変貴重な経験となりました。



備蓄食品の有効活用を模索中です

説明用のシールを1枚ずつ貼付して趣旨を説明しています



災害時に調理が出来なくなったことを想定して当院ではアルファ米（※）を備蓄しています。賞味期限は5年間。このため、期日が迫ってきた場合は「赤十字フェスティバル」の来場者への試食、院内の災害研修参加者の昼食などとして活用していますが、最近は新型コロナウイルス感染拡大もあり、種々のイベントが中止となっています。

賞味期限が短い備蓄米の活用策を模索していたところ、伊達市地域包括支援センター様との調整がまとまり、昨年6月に70食を提供、経済的に困窮されている方などの食事として活用していただきました。今後もしばらくは継続的に期限切れ食品が出てきますので、活用策をお持ちの方は、社会課までお問い合わせください。

※水またはお湯をかけることで食べられる保存のお米

【全国お雑煮巡り！ ～各地の変わり雑煮～】

お正月と言えば「お雑煮」ですね。お雑煮は、もちと料理を味噌味で煮た室町時代の料理がルーツ。これが進化したのがしょうゆ味で、お正月に出されるようになったのは戦国時代からのことです。今回は、地域のお雑煮を4点紹介します

①東京都

角もちを使った、すまし仕立てが特長。鶏肉、しいたけなどで具沢山でコクのある味。味の決め手は「黄ゆず」。鶏の旨みでコクがありながらも、後味はすっきりさわやか。



②新潟県

いくら・はらせ(塩サケのハラミの部分)が主役に海の幸を使用。軽く茹でたいくらもちとしており、まろやかでクリーミーな味わい。



③京都府

丸もちを茹で、白みそで味をつける雑煮の原型。みそ味の雑煮は全国的にみると、関西周辺に固まっています。とろりとした白みそ仕立ての優しい味わい。



④島根県出雲市

小豆に丸もちを加えて、砂糖で味をつけたもの。関西のぜんざいにあたります。ほかの地域とは一味違ったデザート感覚のお雑煮ですね。



キッチン MEMO

- 角もちは焼いて食べるのが一般的。丸もちは、茹でて食べることが多いです。
- おもちは冷蔵庫で保存し、賞味期限以内に食べきりましょう。

※おもちの食べすぎには注意！！

おもちは見ただけでもエネルギーが高いため、食べすぎに注意が必要です。

おもち2つで、ごはん茶わん1杯分と同じくらいのカロリーがあります！

野菜などで具沢山にする、汁は薄味を心がける（塩分の取りすぎにも注意）

など食べ方も工夫しましょう。



栄養課 管理栄養士 和野 真帆

伊達赤十字病院理念

伊達赤十字病院は赤十字のこころを基に、地域の皆様に信頼される医療を目指します。

基 本 方 針

- 1 患者様の人格、人権を尊重した、患者様の立場に立った医療を目指します。
- 2 医療人として常に自己研鑽し、より高度な医療サービスの提供をいたします。
- 3 病院における医療事故の防止及び医療の安全性の更なる向上を図ります。
- 4 胆振西部地域の中核病院として、医療、保健、福祉との連携を図り、住民の健康と生活を守ります。